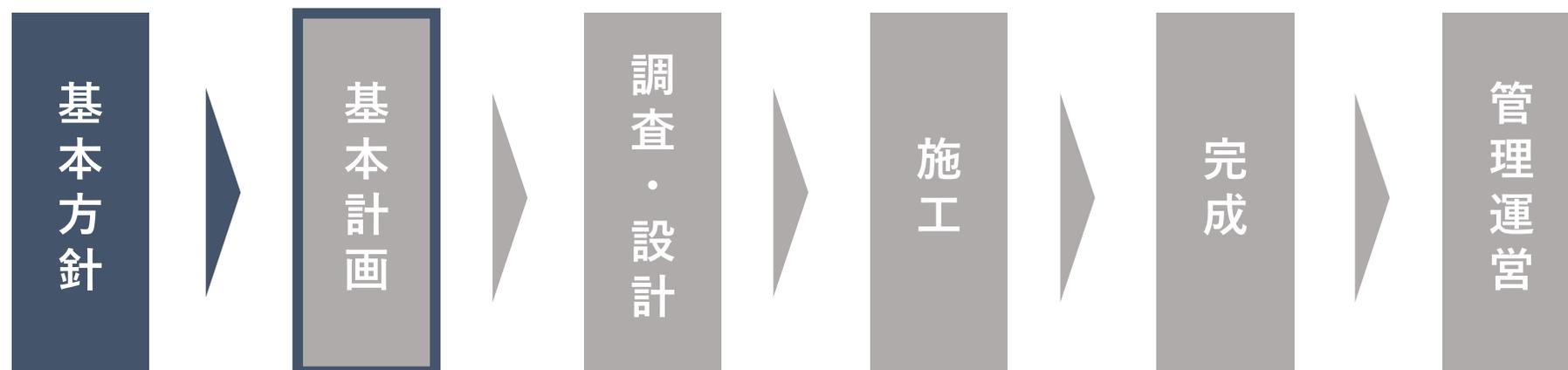


福山駅前広場の使い方について

●事業の段階について

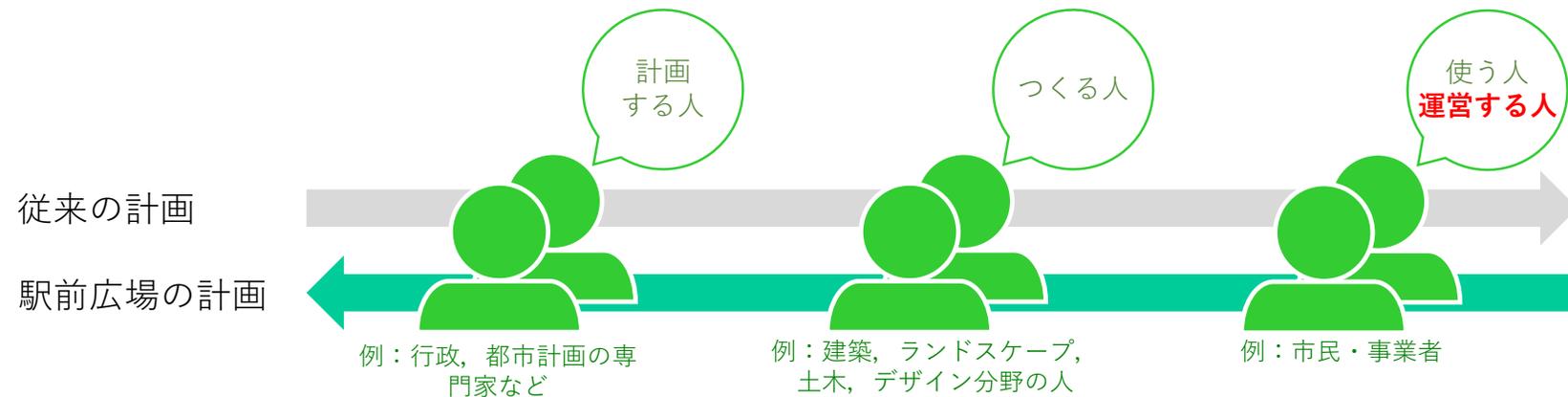


年度	内容
2023年度（令和5年度）	基本計画（素案）を作成
2024年度（令和6年度）	基本計画の策定
2025年度（令和7年度）以降	調査，設計，施工

※目標年次は計画内容によって変わるため、現時点では未定

●計画のプロセス

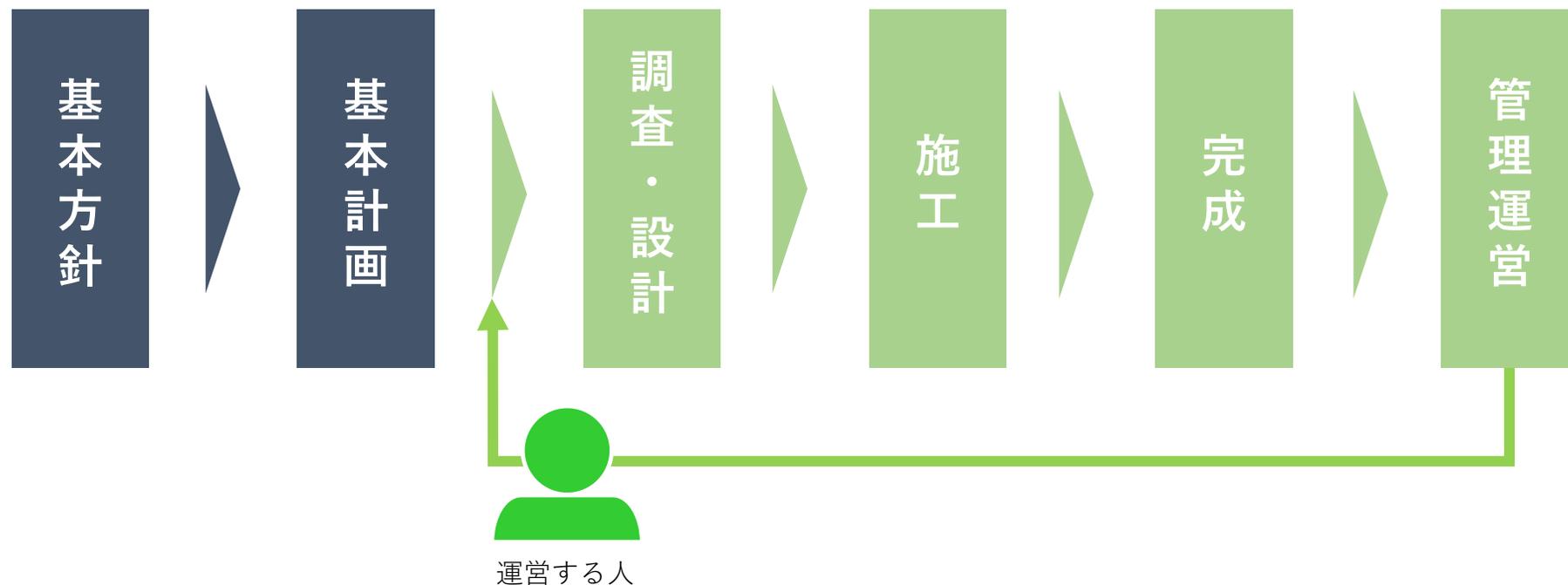
従来のまちづくりは、「計画する→つくる→使う」というプロセスで行われています。駅前広場に必要とされる機能のあり方を検討していくためには、**駅前広場の利用者が駅前広場でどのような活動をしたと考えているのかを把握し、多様な関係者と連携しながら、計画を検討していくプロセスが大切になります。**



広場を運営する人の考えを踏まえて、広場をつくる（設計する）ためには、設計段階の前に運営する人(運営事業者)を決める必要があります。

検討の進め方について

●運営する人とともに設計する

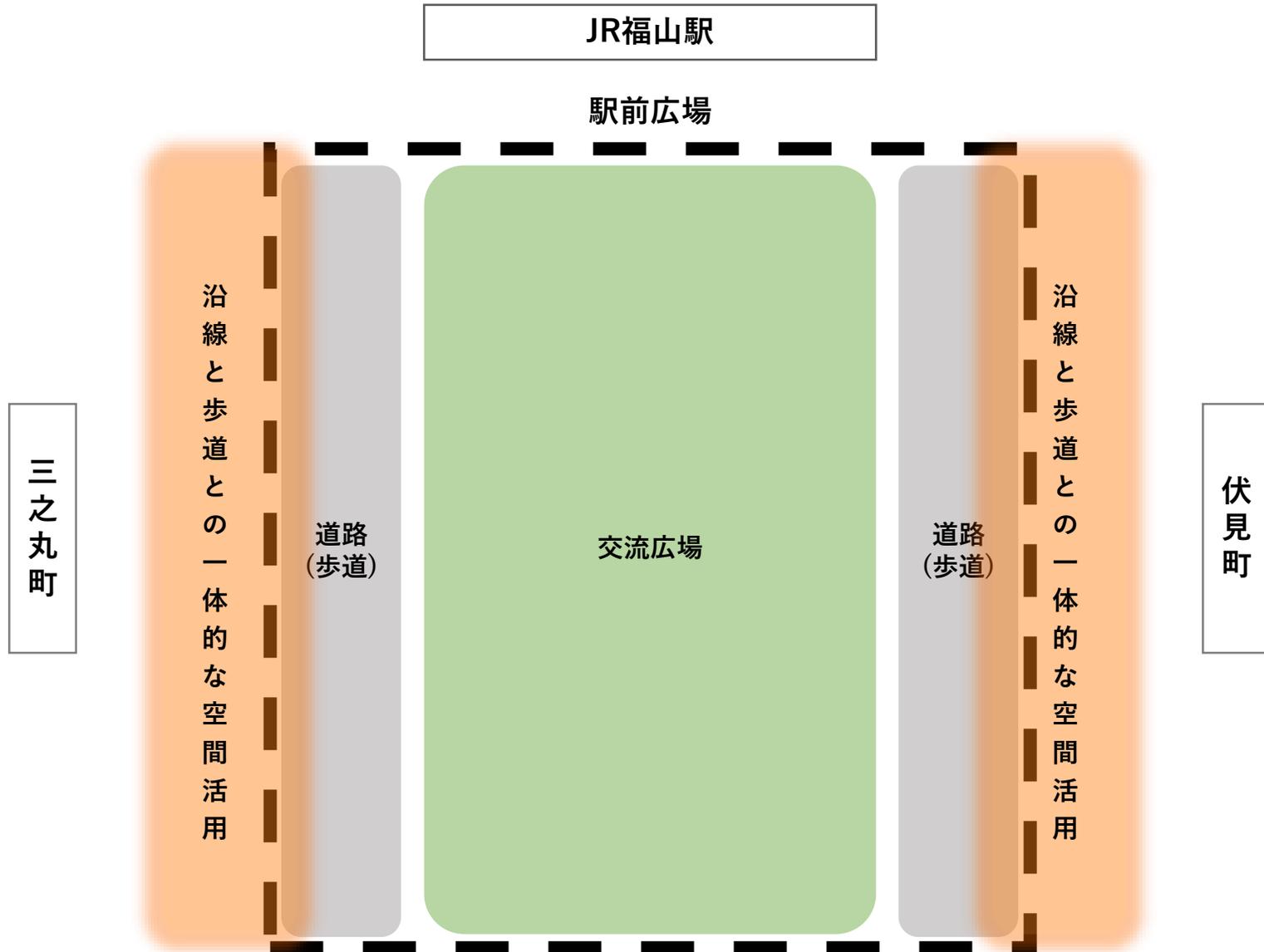


広場を運営する人とともに駅前広場の設計（必要な施設と配置，空間デザインなど）を行うことを前提にしつつ，基本計画の検討を進めます。

駅前広場の使い方（概念図・案）

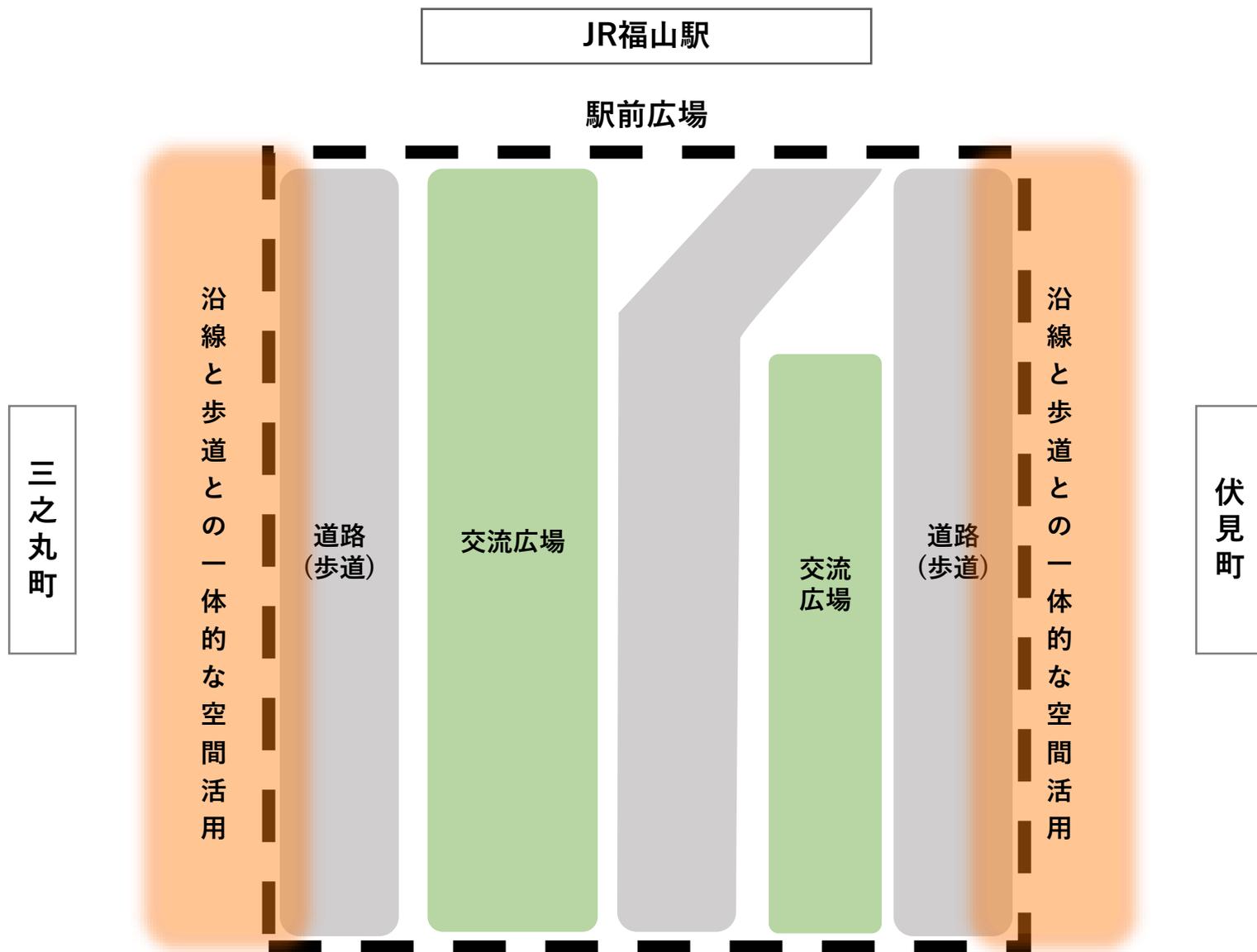
●D案の場合

本資料では、駅前広場に生み出す人々が集い・憩い・くつろぐための広場のことを「交流広場」と呼ぶ。



駅前広場の使い方（概念図・案）

●C案の場合



（１）交流広場運営事業の目的

- ・ 備後圏域（瀬戸内地域）の玄関口としての価値向上
- ・ 広場周辺のエリア価値向上
- ・ 市民の愛着・誇りの醸成

（２）交流広場の役割（目的達成のために広場がすべきこと）

- ・ 広場で出会う人や情報を通して、ふくまちエリアや備後圏域（ひいては瀬戸内地域）の価値・魅力を発信すること
- ・ 居心地の良い空間づくりやその活用によって広場への来訪・滞在者を増やすこと
（広場周辺の飲食、物販、サービス等店舗に対する需要や公共交通需要を高める）
- ・ 福山城遺構の歴史的な価値を伝える象徴となること

（３）整備・運営・管理の方法

- ・ 上記の目的を達成するためには、広場周辺の店舗などと連携した広場空間の活用や地域の価値・魅力を効果的に発信するなど、ふくまちエリアや備後圏域の再生・発展を見据えたまちづくりに関する新たな発想やノウハウが必要。そのため、こうした発想やノウハウに長けた民間事業者と連携しながら、交流広場の運営管理を行っていく。
- ・ 運営管理（交流広場の使い方）を見据えた設計・施工ができるよう手法を検討する。
- ・ サウンディングでの意見も踏まえて検討する。

（４）求める事業者像

- ・ エリア再生の視点を持つ。（敷地主義ではない）
- ・ 企画力や多様な人のネットワークを持つ。
- ・ エリアの価値を高めることへの動機（なぜこの事業をしたいのか）がある。
- ・ 遺構の歴史的な価値や市民の思いを理解し、それらを尊重した広場活用ができる。

（５）スケジュール

- ・ 2024年度 サウンディング，募集要項検討，公募・選定，駅前広場整備基本計画の策定
- ・ 2025年度以降 駅前広場整備の設計